

発行
2017
11/30

●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
●編集 公民館報編集委員会
●印刷 株式会社プラルト

まつもと 公民館報

シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 34

温泉街を練り歩き煙に包まれた 浅間温泉松明祭り



温泉街の空一面に
漂う煙にのって…

10月14日、浅間温泉に古くから伝わる奇祭の松明祭りが開催されました。

五穀豊穡や人々の安泰を願って、毎年暮れに奥宮(秋宮)から浅間の宮(春宮)に降りられた御神体が、秋のとり入れが終わるころに、村人の奉納する松明の煙にのって、山中の奥宮にお帰りになるといいます。奉納された松明は50本ほどで、麦わらを束ねて作られています。

以前は10月3日に開催していましたが、諸般の事情により、現在は10月の第二土曜日に行われています。

時代の変遷とともに少しずつ形を変え、奉納されていくことを願いながら…

子どもたちの未来を応援しよう

平成27年策定の「松本市子どもにやさしいまちづくり推進計画」のもと、今年度新たに「子ども未来応援指針」が策定され、交付金事業も立ち上がりしました。そこで、その活動の様子を並柳団地町会と寿田町町会で取材しました。

子どもの未来応援指針

「松本市子どもの権利に関する条例」（平成25年度制定）に基づく「松本市子どもにやさしいまちづくり推進計画」をより進めるため、「すべての子どもが自らの意思で未来を選択できる環境を整えること」を目的として、松本市が取り組むべき施策を取りまとめたものです。

その中でも、「子どもの居場所づくり事業」は、地域の大人が、子どもたちに対して、食事を中心としただんらん場の提供を事業です。それは食事環境、学習環境の問題に同時に対応できる事業として今後の進展が期待されています。なお、「子どもの居場所づくり推進事業交付金」には4つの団体が応募し、その中に公民館などを実施場所として、町会が主体となって活動している、並柳団地町会と

寿田町町会の2つが含まれています。

庄内地区並柳団地町会

団地内の集会所を実施場所として、昨年8月から「なみカフェ」という名称で、月に3から4回のペースで開催されています。名称は、小学生を意図して「並」をひらがなで入れ、当初参加した子どもたちと一緒に命名したものです。参加対象は、並柳小学校の学区内の子どもで、団地町会外の子どもの参加可能です。参加人数は平均15人くらいです。



内容は、この事業が求めている、学習支援、食事提供、生活相談の三本立てです。時間は平日午後4時～午後7時、休日と土曜

日は午前10時～午後1時30分です。

スタッフは、青木町会長をはじめ町会の方が全体の運営、NPO法人ワーカーズコープの方が内容全般のコーディネート、女性たちが食事準備、ボランティアの大学生が学習支援といった役割分担ですが、細部までみんなで協力して運営しています。

「なみカフェ」の一番の特徴は、ノウハウ提供や食材支援を行うNPO法人や数多くの団体、学生の派遣など人材支援を行う松本大学、そして庄内地区地域づくりセンターに配置された地域づくりインターンと、上手く連携していることです。現在も協力などを申し出る団体は増え続けています。

こうした連携は、「並柳団地プロジェクト」という、先を行って行われていた地域づくりの歩みのなかで培われ、それが「なみカフェ」で大いに活用されています。

寿地区寿田町町会

「子どもの居場所づくりえがおの会」として今年度から月1回土曜日の午前10時～午後0時30分で活動を開始しました。



げました。スタッフは久保田町会長ほか、町会役員が中心ですが、学習支援には田川高校のボランティア同好会にも参加してもらっています。7月の夏祭りには多くの子どもたちが集まりました。

問題を解決して居場所拡充

2町会とも、次代を担う子どもたちをなんとかしたい、健やかに育って欲しいと強く願い、この事業を始めましたが、スタッフや資金の不足など、今後継続していくうえでいくつかの問題もあります。しかし、行政も民間も一体となつて、子どもたちの素晴らしい居場所がさらに拡充されるのが期待されます。

寿田町町会では、2年前に信州大学経法学部井上信宏教授の講演を聞き、町会の課題を分析しました。町会を取り巻く問題・課題を抽出する中で、子どもとの接点を増やす必要性が浮き彫りになり、小・中学校、高校の教師たちとも相談し、何かできないかと模索していたところ交付金事業計画を知り、いち早く手を挙げ

松本さんぽ

～公民館にあふれる子どもの笑顔
松原地区町会連合会～

下校時から午後5時まで、毎日10人ほどの子どもたちが、町内公民館を利用しています。まずは宿題を済ませることが必須の約束で、あとは子どもたちの自主的な活動です。町会の大人たちが交代で子どもたちをみる「放課後子ども教室」が実施されているのです。



ちよこつと

秋のお城を彩る 菊花展

10月25日から11月8日まで、国宝松本城本丸庭園で
第58回国宝松本城菊花展が開催されました。

菊花展は

お城まつりとともに歩んできた歴史ある催しで、松本市が主催、主管を松菊会として行っています。松本城本丸庭園の会場に、小さきさまざまな菊の鉢が、約500並べられ、お城まつりの各イベントに色を添えています。

華やかな大菊

わびさびの小菊

展示は「大菊」と「小菊」に分かれています。大菊はなじみのある背の高い大輪の菊です。小菊の盆栽仕立てに「何年かかるのですか?」との質問が多いのですが、花の寿命は一年、毎年作るそうです。アメリカのロサンゼルスから来たという夫妻は「ゴージャス! 数の多さにも驚きましたが、紅葉とのマッチングがビューティフル。松本他からも訪れる方はいるのですか?」と、通訳ボランティアの高校生に聞いていました。

子どもたちの出展

今回は3校と1児童館からの出展がありました。

菊と一緒に展示されていた、安曇中学校の活動の説明に見入っていた神奈川県から来た学生たちは、「中学生なのによく育てている。自分たちにはこんな経験はない、すごい!」と話していました。安曇中学校では、先生や専門家から指導を受けた中学生が育てます。いくつかの花がこん



菊作りの会

もりと丸く咲いていますが、大人でもこのように咲かせるのは難しいそうです。

菊花展の主管である松菊会は、「大菊部会」が第三地区公民館、「小菊部会」が白板地区公民館で、月に一〜二回、研

修会を行っています。過去には多くの会がありました。現在は大きな会は松菊会だけになってしまいました。菊花展では一般公募を考えているようですが、主管の松菊会では応募の受け入れ態勢が整えられず、主催者のさらなる協力が望まれます。

松本の文化

松本城ではさまざまなイベントが催されますが、お城を支える松本の文化であり、大切な観光資源です。福井県から来た夫妻は、「松本城内での開催は歴史を感じさせます。」と話していました。松本の文化が、衰退することのないように官民一体で知名度を高めていけたら良いと思います。

写真でつづる まつもとの今昔 ③5

～新伊勢町～



(1998.3.24 写真提供: 日本報道写真連盟)
中央西土地区画整理事業が始まった頃、駅前から伊勢町に抜ける通りは狭かった。薬局や自転車店、飲食店などがひしめき合っていた。新しくなった飲食店に入る人の群れや、通行人が多い。



(2017.11.2 撮影)
歩道も付いてきれいになった通り、人の流れが変わったようだ。

おこひる

西山がうつすらと白くなり、春に植えた大豆が収穫の時期をむかえた。今年の大豆は長雨にも負けず、大粒で上々の出来ばえ

である▼子どもたちが「自ら考え、行動できる力」を身につける活動の一環。その中で子どもたちの「自分たちの手で大豆から育てた、手作り味噌を作りたい」との声で、穂高の牧に畑を借り、十年ほど前から無農薬での栽培を始めた▼種まき・移植・土寄せ・夏の月二回の草取り・収穫・選別。味噌豆が出来るまでには子どもたちや仲間の、たくさんの労力が必要だ。季節で景色を変える山々を見ながらの大豆畑へ通う道中は、大変だがどこか幸せな気分。日照りや長雨、どんなに頑張ってもほとんど収穫が出来ない年もあった。それでも、誰ひとりやめようとは言わない▼みんなと一緒に時間と労力を費やし、汗を流して収穫した一粒一粒には愛着があり、その豆で仕込んだ味噌の味は格別である。体にも、心にもやさしいさやかな贅沢。





岡田神社旧参道のケヤキ (樹齢推定約800年)

地区の現況

岡田地区は、女鳥羽川中流右岸に位置し、段丘上に南北に発達した集落です。

主な史跡として、市の天然記念物の大ケヤキのある岡田神社・市の史跡の伊深城跡・岡田宿・岡田口留番所跡・若宮八幡宮・薬師堂・刈谷原峠道などがあります。

今年10月1日現在、世帯数3,060、人口7,217人、伊深・山浦・岡田町・東区・塩倉

探ろう松本の第二弾は、松本市の東山部に位置する岡田地区です。里山に近い特徴を活かしたまちづくりが魅力です。

歴史探訪

探ろう松本 2

里山の魅力あふれる 岡田地区

溜池の六助池

大正14(1925)年、六助稲荷に由来する六助池で、「第一回日本学生水上競技選手権大会」が開催されました。昭和45(1970)年、六助池畔に「学生スケート発祥の地」の記念碑が建立されました。

神沢・松岡の7つの町会で構成されています。

地名の由来と開拓

岡田は、岡の上の原野が開拓されて田畑になったこと由来しています。

かつて岡田には河川が多く、用水路や溜池を造る必要があります。およそ800〜1000年の昔、先人の並々ならぬ苦勞によって、岡田の大動脈である大口堰が開削され、稲倉で女鳥羽川から取水しています。

その後も水路の改修維持管理を重ね、現在の岡田の農業を支えています。

また、地域の一体感を醸成する一大イベントの「岡田夏まつり」では、先人たちの熱い思いが込められた「岡田音頭(昭和29年制作)」の復活をめざすなど、地域文化の継承にも取り組んでいます。

直近の「地域包括ケアシステム」の検討では、良き伝統

顔のみえる関係づくりを目指している岡田地区では、財産区や育成会などの関係諸団体との連携による、植林活動やソーラー発電事業の委託契約など、里山の自然を生かした独自の地域おこしをしています。

地域おこし

また、土足禁止の洋室も備えられています。200を超える団体が利用しており、希望する団体の備置き場も完備しています。

他の地区公民館では見られないシステムとして、休利用しやすい工夫がされています。



「学生スケート大会発祥の地」記念碑

また、土足禁止の洋室も備えられています。200を超える団体が利用しており、希望する団体の備置き場も完備しています。

他の地区公民館では見られないシステムとして、休利用しやすい工夫がされています。



「学生スケート大会発祥の地」記念碑

地産地消のかんたんレシピ

ピリッとした辛味が決め手 『ひき肉のレタス巻き』

肉と野菜のベストマッチング!!

材料: レタス、ひき肉、八丁味噌、ごま油、豆板醤、みりん

1. レタスは大きめにちぎって、冷水に浸しておく
2. フライパンにごま油を熱して、ひき肉を炒める
3. 八丁味噌を入れ、みりんできなから混ぜ合わせる
4. 豆板醤を加えて味を整える
5. レタスでひき肉を巻いて食べる

わがまち自慢第18回

旧町庁舎を活かした波田公民館移設

平成29年7月に、地区公民館が波田支所庁舎に移転しました。

昭和51(1976)年から使用していた今までの建物の老朽化に伴い、行われたものです。

各階の通路はゆったりとした幅に作られ、波田地区各所から出土した土器や土偶、若澤寺などの歴史的建造物の史料などが、まるで博物館の様に展示されています。

部屋のドアは、一部ガラス張り、会議室・和室・料理実習室・託児室があります。

また、土足禁止の洋室も備えられています。200を超える団体が利用しており、希望する団体の備置き場も完備しています。

他の地区公民館では見られないシステムとして、休利用しやすい工夫がされています。